

誰も置き去りにしない、
生き抜く力にあふれた
子どもたちを育むために



インフォメーション

心に届けるおすすめコンテンツ

ホームページで「講演動画」公開中！

■■■■■■■■ ニッケ教育研究所 ビデオギャラリー ■■■■■■■■

教師の皆さまへ 模擬授業形式の特別講演

「教師の日常改革」 授業が変われば
学びが変わる！
子どもが変わる！

〈講師〉関西学院初等部 教諭 森川 正樹 先生

■■■■■■■■ スマホから、ご視聴いただけます ■■■■■■■■

「授業で勝負する」ためのヒントは、
子どもたちとの何気ないやりとりの中にある——
気づきを実践につなげられるお話です。ぜひ、ご覧ください！

動画の
ご視聴は
こちらから



一般会員募集

私たちと一緒に、「子どもたちが生き生き伸び伸びすごせる環境づくり」に参加していただけますか？
子どもたちは“未来の宝”です。私たちが発信する未来の宝を育む情報を、学校・家庭・地域で
是非ご活用ください。入会のお申し込みは、ホームページでご案内しています。

編集後記

世の中の働き方は大きく変化してきています。特に生成 AI が登場し、その進化はめまぐるしいものがあります。生成 AI は、問いかけに対して全世界から情報を集めて分かり易い言葉で答えてくれるとともに、手順の決まった仕事は 24 時間休むことなく行ってくれます。子どもたちが社会に飛び立つ将来においてはさらに進化していることが考えられます。しかしながら、生成 AI は、①意外なアイデアを発想する、②アイデアを試してみる、③自分の責任で決める、というようなことは不得意ということです。様々な体験・他人との交わりを通じて、新たな発想からアイデアを作り、それを試してみ、より良い社会を作っていくのは「人」だと考えます。子どもの頃からそのようなことを経験できる場を用意してあげたいと思います。

一般社団法人ニッケ教育研究所
理事長 楠本 景央



未来
Watch
みらいウォッチ

2025 春号（年4回発行）No.21
2025年4月20日 発行
本紙掲載の記事は、複写・複製・転載を禁じます。

《発行》一般社団法人ニッケ教育研究所
〒541-0048 大阪市中央区瓦町3丁目3-10
TEL: 06-6205-6665 <https://nikke-edu.org/>

未来 Watch

みらいウォッチ

生き抜く力にあふれた子どもたちを育むコミュニティー

特集

未来につなぐ学校づくり 第6回

一人一人の社会的・職業的自立に向け、
必要な基盤となる能力や態度を育てる

私がつくる子どもの笑顔 第17回

一人一人の笑顔が輝く学校づくり

～ つながりと学び合いを大切に ～

教育環境を考える

P T A は未来への架け橋

～ 保護者・学校・地域をつなぐ力 ～

インフォメーション

心に届けるおすすめコンテンツ

※写真は御船山楽園（佐賀県武雄市）です

ニッケ
教育
研究所
一般社団法人
ニッケ教育研究所
NIKKE Institute of Education



第6回

一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てる

《大阪市立大宮中学校》 なかやま としお 中山 寿男 校長

本校（大阪市旭区）の校歌の出だしには、「大淀近き 川風に 生駒嶺遠き 白雲に」とあります。遠くに生駒の山々を望みながら、校区のすぐそばを流れる淀川。そこから吹く川風に、季節の移り変わりを感じることができる地域の学校です。

学校教育目標

「学びあい」「支えあい」「認めあい」
～なかまとの出会い、ともに過ごす時間を大切に～



直面している大きな課題

2027年度（令和9年度）に創立80周年を迎える本校は、ここ数年、学校選択制による大きな課題に直面しています。本校の校区には3つの小学校がありますが、毎年40%以上の子どもたちが近隣の他の中学校へ進学しています。その子どもたちは、比較的学力の高い層と考えられます。大阪市小学校学力経年調査における校区3小学校の6年生の平均正答率と、本校へ進学した生徒の平均正答率を比較すると、各教科で6～8ポイント下回っています。このことは、本校の教育活動に大きな影響を与えています。小学校での学習をリードしていた層が抜けるため、その層に引っ張られていた生徒だけでは学習活動が順調に進みません。お互いの意見や考えをうまく伝え合えないことが多く、トラブルも増加してしまいます。小学校で積み重ねてきた「なかまづくり」を、中学校で一からやり直さなければならないのです。

私はこれまで本校で教諭を10年、教頭を3年務めました。その後、校区内で小学校の校長を2年間務め、2023年度（令

キャリア教育の充実を突破口に

小学校の時にコロナ禍を経験した子どもたちは、あらゆる行動が制限されていて、体験的な活動が著しく不足しています。こうした背景から、実物に触れる体験、見る体験、やってみる体験を大切にしたいと考えました。

まず校長1年目には、職場体験学習にご協力いただける事業所を増やし、子どもたちが多様な職種を体験できるよ

うにしました。子どもたちは、やがてより広い社会との関わりを持っていくことになります。その未来を輝かせるために、必要な力を身につけておくことが大切です。ここでは、中学生世代の子どもたちの教育について、現職の校長先生に考え方や具体例を紹介していただきます。

第6回は、大阪市立大宮中学校の中山寿男校長です。

和5年度）に校長として再び本校に着任しました。着任する際の引き継ぎで、「卒業生の高校中退率の高さ」を課題の一つと考えている教職員の声を多く聞きました。私は教諭時代の最後の3年間、進路指導主事を務めていましたが、その時も同じ課題を抱えていました。

着任して地域を回っていると、保護者になった、かつての教え子たちに出会いました。その際、「うちの子は大宮には行かせへんで！」とハッキリと言われたこともあり、とても悔しい思いをしておのスタートでした。しかし、地域には大宮中学校を心から応援してくださる多くの方々があります。地域の皆さんの声を聴き、学校からも思いを伝え、教育活動をご支援していただく——。子どもたちががんばる姿をお見せし、学校を応援していただく——。子どもたちが大宮中学校で学んだことを誇りにし、門出していく——。こんな学校をめざし、キャリア教育の考え方を教育活動に取り入れることにしました。

うにしました。夏休みには校区内にある和菓子店の店主を講師としてお招きし、和菓子作り体験教室を開催しました。また、バスケットボール部は、アメリカ・サンフランシスコから来た日系チームとの交流会に参加しました。さらに、英語科の学習では、島根県隠岐の島にある中学校との交流が実現しました。

大阪市教育委員会から多大な支援をいただいたおかげもあり、2024年（令和6年）1月、「第16回キャリア教育優良教育委員会、学校及びPTA団体等文部科学大臣表彰」を受賞しました。これは、地域と連携してさまざまな体験や交流を行っていることが評価されたものです。また、本校のキャリア教育の取組が、旭区が発行する「広報あさひ」で3回にわたって紹介されました。



消防署での職場体験学習



和菓子作り体験教室

エビデンスを大切に「なかまづくり」

本校では長年にわたり、人権教育を基盤とした「なかまづくり」を大切な教育の柱としてきました。しかし、コロナ禍や若手教員の増加、働き方改革など、さまざまな要因が重なり、本校で大切にしてきたものが薄れつつあることを危惧しています。それゆえ、特に若手の教員には、これまで先輩方が大切にしてきた不易で泥臭い実践を積み重ねることで、力をつけていってほしいと期待しています。

2024年度（令和6年度）、本校区の1中3小では、『「学びあい」「支えあい」「認めあい」を実現する学級づくり～9年間で子どもを育むことをめざして～』というテーマで研究を進めて

学級活動を要として

学校教育目標のサブタイトル「～なかまとの出会い、ともに過ごす時間を大切に～」は、2023年度（令和5年度）卒業式での、卒業生代表の答辞にあったフレーズです。教員のアイデアで、子どもたちの声を教育目標に反映させることにしました。なかまとともに過ごす場所は、もちろん学級です。子ど

おわりに

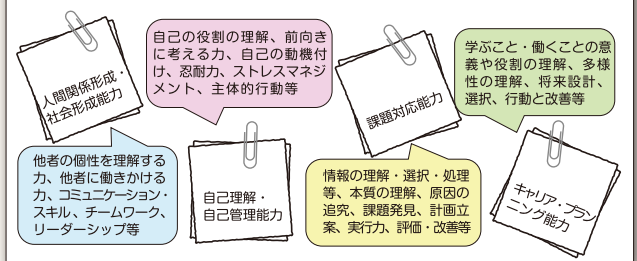
「子どもにとって最大の教育環境は教師自身である」——これは、恩師から教わった大切な言葉です。私たち教職員は、子どもにとって最も身近な生き方のモデルであり、



サンフランシスコのチームとの交流

保育所での職場体験学習

キャリア教育で育成することをめざす4つの基礎的・汎用的能力



※ 大阪市教育委員会指導部が作成した資料から引用

キャリア教育について調べ始めると、とても奥深いものであることがわかってきました。キャリア教育は、「一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てるを通して、キャリア発達を促す教育」と定義されています。また、キャリア教育で育成することをめざす4つの基礎的・汎用的能力が示されています。ただし、何か特別に新しいことを始める必要はないのです。一方で、仕事調べや職業体験学習のような活動だけを行えば十分というわけでもありません。それらの活動をキャリア教育と結びつけることで、日々の教育活動の内容が一段と充実したものになるのです。

きました。その研究の一環として、本校ではhyper-QU調査を活用することにしました。hyper-QU調査は、生徒へのアンケートをもとに、学級集団の雰囲気や成熟度、学校生活における個々の生徒の意識や満足感、さらには学級集団内での生徒の相対的位置を測定し、分析するものです。2024年度は大阪教育大学から講師をお招きし、分析結果の活用方法についてご指導いただきました。また、学級の状態に応じた効果的なアプローチについても助言をいただき、「なかまづくり」に大いに役立てています。



もたちが学校で一番長い時間を過ごす学級、そしてそこで行われる授業を大切にすることが、子どもたちの成長にとっては何より重要です。なかまとともに大宮中学校で学んだことを、子どもたちが誇りに思い、夢や目標を持ち、将来社会で大いに活躍できる人材となることをめざしています。

憧れられる存在でありたいと思います。子どもたちの成長を第一に考え、教育環境の充実をさらに進めてまいります。

私がつくる 子どもの笑顔

子どもたちの元気な声や輝く笑顔にあふれた学校をめざし、現場ではさまざまな創意工夫が活かされています。ここでは、小学生世代の子どもたちの教育について、現職の校長先生に考え方や具体例を紹介していただきます。

第17回は、前・大阪市立苗代小学校長、現在は大阪市総合教育センター教育振興担当課長の安倍 紫 氏です。

第17回 一人一人の笑顔が輝く学校づくり ～つながりと学び合いを大切に～

《大阪市総合教育センター教育振興担当課長》 あべ ゆかり 安倍 紫 氏

この4月から異動となり、大阪市総合教育センターで新たなスタートを切りました。これまでの教育現場での経験を活かしながら、大阪市全体の教育振興を支えていきたいと考えています。ここでは、前任校である苗代小学校での実践についてお話します。

大阪市立苗代小学校（阿倍野区）は、全校児童576名の中規模校です。阿倍野区の戦後の人口急増により、1951年（昭和26年）に創立され、当時の南海平野線「苗代田駅」で親しまれた「苗代田」から校名がつけられました。「大切に育てられた苗がすくすくと大きくなり、たくさんの穂をつけるように、苗代小学校の子どもたちも大きく成長し、社会の役に立つ立派な人になるように」との願いも込められています。そうした願いを受けながら、「自主自立の精神に富む人間性豊かな子どもの育成」を教育目標に掲げ、教職員、PTA、地域がつながり合って、「一人一人の笑顔が輝く学校づくり」に取り組んでいます。



学校教育目標

自主・自律の精神に富む人間性豊かな子どもの育成 ～一人一人の笑顔が輝く苗代小学校～

めざす子ども像

- 自ら進んで考える子ども
- 仲良く助け合い高め合う情操豊かな子ども
- 自分の責任を重んじねばり強くやりとげる子ども
- 進んで身体を鍛える健康な子ども

一日のはじまりは気持ちの良いあいさつから

朝の元気なあいさつは、「早寝早起き朝ごはん」といった身体的健康と、「今日も楽しいことがある」「がんばろう！」といった心理的健康とが表れるバロメーターのように感じます。毎朝、地域・保護者の方々に見守られ、笑顔であいさつを交わして登校してくる子どもたちからは、大人もたくさんの元気をもらっています。学校は、子どもたちが日々の安心感と期待感をもって登校できるよう、温かな声掛けとともに、笑顔いっぱい子どもたちを迎えています。

また、児童会活動では「笑顔であいさつ」をモットーに、あいさつ運動に力を入れています。校内でもあいさつが活発になるよう、全校児童で季節ごとに「あいさついっぱい運動」を行っています。この運動には阿倍野高校の生徒会のみなさんも

朝早くから参加してくださり、より一層、元気なあいさつが響き渡っています。



笑顔あふれる心豊かな体験の重視

本校では、「笑顔あふれる心豊かな体験の重視」を重点的な取組として掲げ、全ての学年で積極的に体験活動を取り入れています。ゲストティーチャーをお招きしての「漫才教室」「ラグビー体験」「バドミントン体験」「音楽体感授業」や、「車

いす体験」「トヨタ未来スクール」「命の授業」など、地域や企業の方々にご協力いただき、幅広い体験学習を実施しています。そこでは、普段は見るできない子どもたちの姿を垣間見ることができます。さまざまな人に出会うことで人生観が広がり、

今まで知らなかったことを学んで世界観が深まるなど、子どもたちにとっては新たな自分を発見し成長する良い機会となっています。

また、ゲストティーチャーの方々がご自身のお仕事や専門分野について、その魅力ややりがいを熱く語ってくださるので、生きたキャリア教育にもつながっています。何より、「ほんもの」に触れることで得られる大きな驚きと感動が、子どもたちのさらなる興味関心を掻き立て、「やってみよう！」という挑戦心につながることを期待しています。



読書活動の充実と読解力の育成

本校は主幹学校司書の配置校です。司書は週4日図書館に常駐し、教員と連携して特色ある読書活動の充実に努めています。図書の授業では、担任と共同して「アニメーション」や「苗代流味見読書」など、遊び感覚を取り入れながら読書の幅を広げています。また、校内研究と連携させ、教科学習に読書活動を効果的に取り入れることで、読解力の育成につなげています。

校内には図書館以外に「ちょっ図書館」と名付けられた図書スペースが2か所あります。ここでは学習内容や季節に合わせたテーマで本を集め、特設ワゴンに並べられています。そのため、子どもたちはいつでも飽きることなく本を手にしており、

晴れた日でも図書を楽しむ子どもたちであふれています。「年間100冊！」をめざす子どもたちが多くことには感心させられます。

苗代小学校の子どもたちはみんな読書が大好きです。いろいろな本との出会いが子どもたちの成長に豊かに影響していくよう、これからもさまざまな仕掛けを考えていきます。



つながり、高め合い、学び合い

なかなか自分の思いをうまく伝えられないことが原因で、トラブルが起きやすい子どもたち。友だちとのかかわりを大切にし、友だちの考えを聞いて解釈し、自分の考えを伝えることのできる力をつけさせるにはどうしたら良いでしょうか。この課題の解決に向けて、国語を中心に校内研究を進めています。子どもの語彙力を増やし、読解力を向上させ、対話的な活動を通して学びを深める授業づくりをめざしています。授業ではペアトークやグループ活動を効果的に取り入れ、自分の考えを伝えたり、相手の意見を聞いて考えたりすることができるよう、系統的に「交流学习」を導入しています。

ペア学級交流では異学年の学級でペアを組み、本の読み聞かせをしたり、国語で作成したリーフレットを紹介し合ったりします。1年生も6年生に読み聞かせをしますが、暗唱して朗読する1年生を見て6年生が感心する姿も見られます。また、高学

年が低学年にパソコン操作を教えるなど、**互いにつながり、高め合い、学び合いながら**交流を深めています。こうした機会を通して、子どもたちは**互いに認め合い、助け合い、励まし合うことの大切さ**を学んでいます。教科学習だけでなく、さまざまな取組の中で学び合いを大切にしています。



地域とのつながりを教育活動に生かして

学校の取組にはたくさんの地域の方々が参加してくださり、みんな顔見知りです。毎朝、交差点などで誘導してくださる見守り隊や保護者、そして地域の皆さん。年に約20回も本の読み聞かせに来てくださるボランティアの皆さん。低学年の「町たんけん」では、商店街や郵便局の皆さんが「またきてね！」と気軽に声をかけてくださいます。防災訓練には、阿倍野消防署や地域防災リーダーの皆さんが参加し、子どもたちに防災の大切さについて教えてくださいます。また、阿倍野高校野球部の皆さんは、

おわりに

子どもの笑顔のためには、まず教職員が明るい笑顔や大切な言葉をシャワーのように子どもたちに注ぐことが大切だと考えて

放課後にティーバッティングの指導をしてくれます。子どもたちは質問をしたり、お礼のお手紙を書いたりして、主体的に地域の方々につながっていきます。教職員も保護者や地域の方々とつながり、そのつながりをさまざまな教育活動に積極的に生かしていることが、さらなる効果を生み出していることをとても嬉しく感じています。多くの方々に見守られ、日ごろから声をかけていただけるありがたい環境の中で、子どもたちはのびのびと成長していきます。人を育てるのは、やはり「人」だということを痛感します。

います。学校が子どもの笑顔であふれるように、教職員が一丸となって「つながり、学び合う」取組を進めていくことを願っています。

PTAは未来への架け橋 ～保護者・学校・地域をつなぐ力～

《ニッケ教育研究所顧問》 **勝本 孝夫**

かつもと たかお

元・大阪市立榎本小学校校長（鶴見区）
元・大阪市立姫里小学校校長（西淀川区）



新年度がスタートしました。子どもたちはもちろん、PTAにおかれても心機一転の気持ちだと思います。そのPTAですが、一部の地域で活動そのものが難しくなっているというような話を耳にします。保護者意識の変化などが原因で、廃止したり、活動の一部を外部に委託したりするケースが出てきているの

です。私は、今こそ不易流行に立って、時代に即したPTAのあり方を模索する必要があると考えます。なぜなら、なくすのは簡単ですが築き上げるのは大変だからです。私は自身の経験から「PTAは必要」と考えていますが、その理由についてお話しします。

新しい時代にも色あせない「PTA文化」

教員時代を通じて、PTAのあたたかさや必要性を強く感じてきました。それは、保護者と教職員がともに築き上げた「PTA文化」であり、これからの時代にも求められているものです。

保護者同士の交流が深まる

PTA活動を通じて、保護者同士の交流が深まっていくのを目の当たりにしました。例えば、「ベルマーク運動」では、大量のベルマークを集計する地道な作業を通じて、保護者同士が自然に交流していました。何気ない家庭の話題を交わしている様子を見て、PTA活動は子どものためだけでなく、保護者自身が楽しみながら参加できる場でもあったのです。このような支え合い、認め合う雰囲気こそが、PTAの存在意義だと実感しました。

一体感が子どもたちに良い影響を与える

同じ目的を持ってともに活動する中で、PTAに一体感が醸成されます。そのことが、子どもたちに良い影響を与えていると感じました。例えば、PTA主催の競技大会では、保護者と教職員が丸となってプレーする姿が見られました。その光景は、子どもたちに「一緒に頑張る」ことの意味と大切さを示していました。

PTAを取り巻く環境の変化と課題

一方で、時代の変化に伴ってPTAを取り巻く環境は大きく変化しています。それを正しく認識することで、時代に即した、魅力的で価値ある組織に変革することができると思います。

取り巻く環境の変化

- 社会構造の変化：共働き世帯の増加、多忙な保護者の増加、少子化に伴うPTA会員数の減少
- 技術と情報化の進展：ICTの家庭での定着、個人情報保護への対応、コンプライアンス対応
- PTA活動への意識変化：保護者の参加意識の低下

教育活動の「すきま」を埋める

学校教育活動には、教職員の目が届きにくい「すきま」部分があります。そこを、PTA活動の一環として保護者が補うことで、子どもたちの学校生活はより安全で豊かなものになりました。

学校生活の「すきま」を埋める

保護者が登校時に通学路で「立ち番」をしたり、始業前や授業の合間に「読み聞かせ」を行ったりすることで、子どもたちの安全と学びへの意欲を支えました。

行事の「すきま」を埋める

入学式、卒業式、運動会などの大きな行事において、保護者が細やかなサポートを行うことで、教職員だけではできない安全管理やスムーズな進行を支えました。

休日の「すきま」を埋める

子どもたちが学校にこない土日や長期休業期間に、保護者が地域と連携して見守りを行うことで、子どもたちが元気に伸び伸び過ごせる環境が守られました。

今の課題と見直す際の視点

- 負担軽減と柔軟な運営：役割分担の最適化、参加しやすい環境づくり、ICTの活用
- 透明性と効率性の向上：活動や会計の「見える化」、保護者ニーズに合った活動の企画、コンプライアンスの徹底
- 地域連携と新たな役割：地域全体で子どもたちを支える仕組みづくり



支え合い、認め合うPTAをめざして

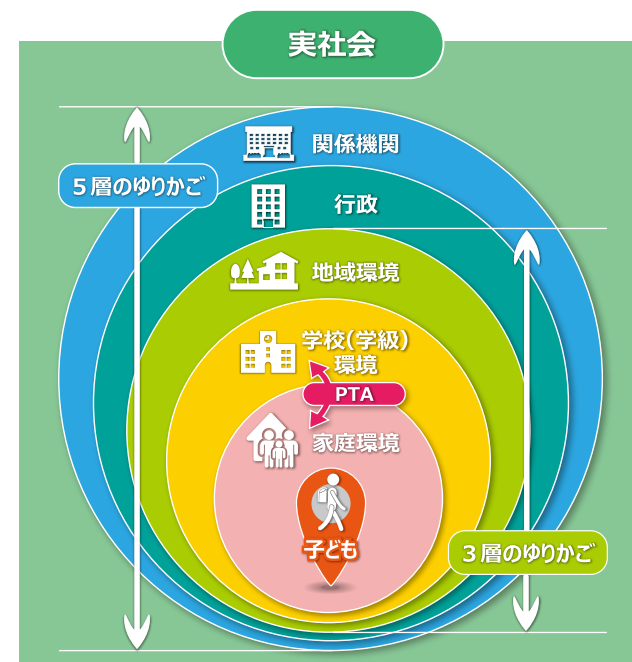
現在のPTAが抱えている課題は、地域によってさまざまです。ただ、共通して顕在化しているのは、主に次の3つです。

- 1 活動参加が任意ではあるが、参加意識をどのように高めていか。
- 2 一緒に活動する時間の確保が難しい中で、どのような工夫が有効か。
- 3 前例を踏襲するだけの状態から脱却するためには、保護者ニーズをどのように反映すべきか。

私は、「課題の中にこそ、発展への因がある」「課題があるからこそ進化できる」との考えのもと、新しい時代でのPTAのあり方について3つの視点から提案します。

「子どものため、という原点を確かなものに

「困った時は原点に帰れ」と言うように、まずは基本に立ち返ってみましょう。PTAは「子どものため」「子どもを育てる教育環境をつくるため」にあるという原点を皆で再認識し、広い視野で教育環境をイメージすることが大切です。私はこれまで「3層のゆりかご」についてお話してきましたが、PTAのあり方を模索する時、さらに視野を広げる必要があります。それが、子どもが実社会に羽ばたいていくまでの「5層のゆりかご」です。



子どもを中心にした5つの円は、子どもを取り巻く教育環境です。それぞれが、「子どものため」という共通の目標を持って役割を果たすことを表しています。また、PTAは最も子どもに近い存在であり、子どもを育てる「教育環境の要」となり得るのです。この原点をみんなで再認識することで、「学校のPTA」という意識から、子どもたちの「未来への架け橋」というあたたかい意識に変わっていくのです。

PTA 保護者説明会で伝えること

年度始めになると、PTA保護者説明会が開催されます。新入生の保護者にとっては、初めてPTAと出会う場であり、その時の出来事がPTAの印象を決定づけると言っても過言ではありません。私は、そこで伝えておくべきことが2つあると考えます。ひとつは、PTAは任意団体であり自主的な組織なので、加入は自由であるということです。これを丁寧に説明することで、PTAへの保護者の理解が深まります。

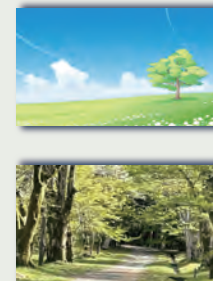
もうひとつは、PTAの存在意義と魅力について実感を伴って伝えることです。例えば、「時間をつくり出してPTA活動に参加した結果、たくさんの良き出会いがあって楽しい時間を共有できた」「子どものためにとっして活動した結果、自分自身が成長するきっかけになった」などです。活動で得られるものや楽しさをまっすぐ伝えることで、PTAへの保護者の関心が高まります。

参加しやすい環境をつくる

ICT機器の普及が進んでいる現代社会において、それを活用し、誰でも、どこでも、無理なくPTA活動に参加できる環境をつくるのが大切です。例えば、オンライン会議やアプリを使用すれば、業務の効率化を図ることができます。また、「自分ならこんな活動ができる」「この時間帯なら活動できる」というように、一人一人の持ち味を活かした柔軟な発想が生まれてきます。時間的な制限がある方でも、参加しやすくなる環境をつくるのが大切です。

ここまで、「PTAは必要」という立場でお話してきましたが、実際には学校ごとにさまざまな課題があると思います。また、解決の方法も一様ではありません。大切なのは、みんなで知恵を出し合い、柔軟に工夫していくことだと思います。より多くの対話を通じて解決策が見出され、保護者・学校・地域をつなぐ力として、今の時代に合ったPTAが構築されることを願っています。

スマホで読める、
感動のコラム！



信じ抜く慈愛

“母の愛は、海よりも深く山よりも高い” 長年教育現場に身を置いてきた私は、保護者である多くのお母さんと接する中…

続きはこちらから >>>



握りしめた手

新入生を迎えるかのように、色とりどりの花々が咲き薫っています。八重桜、チューリップ、すずらん、菜の花…

続きはこちらから >>>

